

平成30年度総合戦略推進委員会からの提案等に対する検討の方向性一覧表

1. 総合戦略への意見

No.	基本目標	施策の方向性	提案・意見・検討事項	委員会での回答内容	関係課・所	検討の方向性	関係課・所コメント	備考
1	2 仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	ウ にぎわい創出と観光業の振興	(安藤委員) ○観光振興による中心市街地の面的再生事業 ・「白壁土蔵群・赤瓦」は滞在時間が短いことが課題だが、「フィギュアミュージアム」「旧ナショナル会館跡地」「県立美術館」とできることで、官民一体となった回遊性向上の取組が必要。 ・観光地や各施設が連携し一体として捉えることで、観光地全体としての魅力をアップさせる施策や仕組みづくり(移動手段、歩道等の整備、割引券、飲食等)をハード、ソフトの両面から検討、実施し発信していくことで、観光客増加と併せて中心市街地での観光客の滞留時間も延ばしていく。 ・地元に着るお金も増え、温泉地への宿泊客増につながる。 ・観光客は、いろいろな興味を持って来られる。フィギュア然り、カメラ然り。誰に、どういふふうに情報を発信していくかも一つの方法である。	(美船部長) ・いろんなことをチャンスと捉えて検討していく。 ・ターゲットについては、ひなびたなどははっきりしている。	【商工観光課】	既存事業を継続	【商工観光課】 ・観光ビジョンにおけるゾーニングを元に、各エリアでの楽しみ方や周遊方法について効果的な見せ方を意識しながら情報発信したい。	
2	2 仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	ウ にぎわい創出と観光業の振興	(福井委員) ・倉吉で写真展を開かれたカメラマンが、「マップにインスタ映えするポイントや体験メニューを落とし込む必要がある。チラシも見せ方が弱い。まだまだ手を加えることはできる。」と指摘されていた。	(美船部長) 確かに、倉吉の路地裏の風景がいいと、写真を撮られている人を見かけた。 (木口委員) ・マップについては、フィギュアミュージアムができたこともあり、マップ掲載エリアを広げる計画で、現在刷り直しているところ。	【商工観光課】	既存事業を見直し	【商工観光課】 ・写真スポットのマップへの落とし込みについてはパンフレットの更新時に検討したい。	
3	2 仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	ウ にぎわい創出と観光業の振興	(石村委員) ・西町までは観光客は来るが、それから西エリア・八橋往来はほとんど歩いていない。お寺もいっぱいある。 ・レンタサイクルが置いていないので、行動範囲が広がらないのではないか。	(美船部長) ・豊田家住宅、倉吉淀屋までは来てもらえるが、それから先の西エリアを歩いてもらう仕掛けづくりが大事だと考える。 (木口委員) ・白壁土蔵群観光案内所には5台のレンタサイクルを設置している。	【商工観光課】	既存事業を継続	【商工観光課】 ・西町以西のエリアには観光資源が少ないため、フィギュアミュージアム⇄白壁土蔵群の周遊動線において、地元、関係団体等が創意工夫(各ポイントにフィギュア設置、マップ作成等)をしながら歩く仕掛けづくりに取り組んでいる。	

4	2 仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	ウ にぎわい創出と観光業の振興	<p>(河野委員) ・河原町の小川家住宅や庭園は開放されるのか。 ・水道ポンプ施設もいよいよ、水道山は見晴らしがとて面白い。 ・鉢屋川沿いを散歩で歩いてもいい風情がある。</p> <p>(福井委員) ・小川家庭園だが、月見をするととてもいい。収益性をどう持続させるかが課題。誰が管理していくのかも大事。</p> <p>(三木委員) ・小川家住宅だが、誰が、どのようにするのか、主体者がいない。 ・インフラ整備は行政の役割だが、プレイヤーは民間であるべきで、リスクを取ってでも、強い思いを持った人が出てこないか持続可能な物にはならない。儲けるのは民間が得手。</p>	<p>(美船部長) ・小川家住宅・庭園の開放については、どうやったらいいか、中心市街地活性化委員会でも話しているところ。持ち主が自己負担しながら庭園等改修されている。誰が中心になって開放していくか、枠組みづくりをしているところ。 ・水道ポンプ施設は通常は外観のみの見学だが、開放等について確認してみる。 ・どういった観光資源があるか、もう一度洗い出す。 ・金融機関にプレイヤー探しを協力してもらいたい。</p>	【商工観光課】 【文化財課】	既存事業を継続	<p>【商工観光課】 ・小川家住宅や庭園の活用にあつては、中心市街地活性化事業と位置付けて支援しているところ。プレイヤー探しと共に事業構想の事業計画化にめけて継続的に支援している。</p> <p>【文化財課】 ・県指定文化財小川家住宅・小川氏庭園の保存修理と活用整備に対して補助。 ・小川氏庭園(環翠園)は平成33年度秋公開を予定。小川家住宅主屋については修理・公開とも目処が立っていない。</p>	
5	2 仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	ウ にぎわい創出と観光業の振興	<p>(竹尾委員) ・倉吉の観光で足りないのは「グルメ」。まち歩きを楽しんでもらおうと思えば、お腹は空しく、喉も渴くが、そういうニーズを満足させるお店がなかなかない。美味しい物があれば、次また行ってみようというリピーターにつながる。 ・海外もターゲットにするなら、グルメサイトで上位にランキングされないと来てもらえない。</p>		【商工観光課】	既存事業を継続	<p>【商工観光課】 ・鳥取県の良質な「食材」は観光資源の魅力と認識している。関係機関等とも連携を図り、既存の広報媒体を活用しながらその魅力を発信していきたい。</p>	
6	2 仕事をつくり、人を呼び、また仕事を呼ぶ	ウ にぎわい創出と観光業の振興	<p>(田村委員) ・県立美術館ができれば、人の流れも変わってくる。 ・バス路線の見直しもしているようだが、どう回遊の流れを作っていくのか、行政の動きがなかなか見えてこない。 ・民間の力はたかが知れているが、行政の動きに民間が付いていく。行政が示してほしい。</p> <p>(岩世委員) ・海外からの観光客が、市内に来る交通手段がない。ループバスは必要。既存の路線バスを活用し、ワンデイチケットなどがあるといい。 ・美術館が、地域のどういう存在になるか、美術館ができたその延長線上に何があるか、できるか。そろそろ考えないといけない時期にきている。</p> <p>(福井委員) ・ループバスは、あるものを使うという意味で既存の路線バスをシェアすることは大事。</p>	<p>(美船部長) ・県とも話をしているが、まだ美術館本体が見えてきていない状況。</p>	【企画課】	既存事業を見直し	<p>【企画課】 ・中部地域の1市4町と鳥取県の行政、バス事業者等の交通事業者、利用者等代表で構成する鳥取県中部地域公共交通協議会において、地域の路線バスの再編を検討している。 ・現在、駅から堺町を経由して西倉吉へと運行している路線の一部を、駅から美術館前・倉吉未来中心・市役所を経由して西倉吉へと運行する路線に振り替えることを計画している(路線再編時期は、平成31年10月を目標)。 ・既存の路線バスを残したまま、循環バスを運行した場合、運行する範囲にもよるが、バス事業者が運送する既存の路線バスの利用者を奪う可能性があり、国や県の補助が受けられなくなる可能性もあることから、影響の少ない再編を検討している。 ・新たなバス利用人数の増大を図るため、現在、湯〜遊2デーバスなどの取組みを参考に、ワンデイチケットの商品造成などについて、バス事業者を検討いただくよう働きかけたい。</p>	

7	3 地域を守り、地域資源を活力に変える	ウ 高齢になっても障がいがあっても安心して健康でいきいき活躍できる環境づくり	<p>(田中響委員) ○公民館ナース養成・活躍する地域の創出事業 【事業の対象】 13地区に居住する看護師・保健師・助産師資格を有する地域住民で各地区1～2名。 【内容】 鳥取看護大学内で開催する公民館ナース養成講座全プログラムを修了し、公民館ナースとして認定する。公民館ナースは自分の居住する地区公民館で地域の健康づくりのため、普段から健康意識を高めるアプローチや、病の早期発見、医療や福祉、行政機関への橋渡しなどを行う。具体的には、「まちの保健室」開催や、「まちの保健室」ニュースレターの作成、公民館事業や地域の行事などに積極的に参加し、地域の健康づくりに貢献する。そのために地区公民館に月80時間程度出務が必要となる。 【想定される予算】 一人の公民館ナース養成・活躍にかかる費用は、初年度年間170万円と見込んでいる(人件費:10万×12か月、設備:30万円、活動経費等:20万円) 【先進地の取り組み事例】 雲南 コミュニティナースプロジェクトは、コミュニティナースを養成し、派遣するプロジェクトである。</p>		【保健センター】	将来的に検討	<p>【保健センター】 ・地域住民が普段から健康意識を高めていくことは重要。「まちの保健室」は地域の健康づくりをサポートする取り組みであり、地域保健の充実に資するものと考えている。また、「まめんなかえ師範塾」の卒業生が地域の健康づくりのサポーターになっていただけことを期待している。 ・公民館ナースの養成及び配置は、「まちの保健室」の延長線上にあるものと理解している。 ・少子高齢化が一層進む中、だれもが住み慣れた地域の中で安心して暮らしていけるよう、地域で支え合う仕組みの構築が必要であり、引き続き検討して参りたい。</p>	
8	3 地域を守り、地域資源を活力に変える	ウ 高齢になっても障がいがあっても安心して健康でいきいき活躍できる環境づくり	<p>(山脇委員) ・「まちの保健室」は地区公民館で実施されているが、公民館まで遠い高齢者は出かけにくい。各地区で公民館ナースが実現すれば、順番でいいので各自治公民館にも出かけてもらえるといい。</p> <p>(石村委員) ・月2回「なごもう会」を各地区で開いており、看護師も来ている。病院に行かなくてもいいというような声もある。 ・認知症等の疑いがあれば、地域包括支援センターに情報共有し、訪問につなげている。</p>		【保健センター】 【長寿社会課】	将来的に検討	<p>【保健センター】 ・「まめんなかえ師範塾」の卒業生との連携を図りながら、まちの保健室を一層充実していく中で、自治公民館での実施も引き続き検討して参りたい。</p> <p>【長寿社会課】 ・なごもう会については、多くの市民からの支持を頂いている事業でもあり、今後も継続していく予定ではあるが、運営方法については、民間の社会福祉法人等への委託等も視野に入れて検討を行っていく。</p>	

2. 横断的な課題への意見

No.	ライフステージ別ターゲット	横断的課題	提案・意見・検討事項	委員会での回答内容	関係課・所	検討の方向性	関係課・所コメント	備考
9	小学生～高校生	職場体験、ふるさと教育、キャリア教育の充実	<p>(岩世委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内事業者の中には、おもしろい経験値もあり、人の話を聞く力もある人がいらっしやる。 ・人材がもっていない。どう活かしていくか。こういう人たちが若者たちにいろいろと伝えられる。材料もたくさん持っていて、刺激を受ける。こういう人たちに繋がる仕組みが必要。 <p>(竹尾委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が経験したことしか話せない。地域で育ててもらったと思っており、それを高校生や若い人たちに伝えようと思う。 		<p>【学校教育課】 【生涯学習課】 【商工観光課】</p>	既存事業を継続	<p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜授業、総合的な学習等で倉吉に愛着を持つ子どもの育成のために取り組みを行っている。土曜授業は年5回実施し、地域の方々の協力を得ながら、各校区を対象としたふるさと学習を展開中。 ・地域の企業等の協力により職場体験学習を実施、ゲストティーチャーを招聘しキャリア教育を推進している。 ・これらの取組の中で検討してみたい。 <p>【生涯学習課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材活用については、様々なジャンルで長けた知識をお持ちの方が登録されている「人材銀行」事業を実施している。 ・地区の青少年育成協議会や、学校・PTAをはじめとし、地域の大人が地域の子どもたちとの関わりをもち、様々な事業を通して、子ども時代に大切な体験活動や、地域の文化、歴史などを伝えていく機会をもっている。 ・「生涯学習講座」では、主に若者をターゲットに「若者講座」を開催している。魅力ある人材はいるが、それぞれが個で存在しており、まちづくり、地域づくりに繋がっていない現状があり、それを結び付けて行くことを狙いに行っているもの。これは、鳥取県とも連携し、県民カレッジの企画段階でも提案をしながら、協働して取り組んでいる。 ・これらの取組の中で検討してみたい。 <p>【商工観光課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会が取り組む職場体験学習やキャリア教育に対し、協力企業の呼びかけやゲストティーチャーの紹介など、商工サイドとしても協力していきたい。 	
10	小学生～高校生	職場体験、ふるさと教育、キャリア教育の充実	<p>(田中良委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生は給料に関心があるが、生活コストにはあまり目が向いていないのでは。県外では生活コストが高くなることを教育で伝えてはどうか。 	<p>(美船企画産業部長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市では、移住者の獲得を目的に、「倉吉で暮らそう」というパンフレットを作成し、営業材料として使用している。その中に、倉吉の生活コストを提示している。 	【学校教育課】	既存事業を継続	<p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「会社の設立」「販売体験」「決算活動」などを擬似的に体験したりする起業家教育推進事業(中学校)の中で、起業家精神といわれる「チャレンジ精神」や「創造性」等を養う取り組みを行っている。 ・これらの取組の中で検討してみたい。 	

11	小学生～高校生	職場体験、ふるさと教育、キャリア教育の充実	(岩世委員) ・ふるさと教育の冊子を大人に知ってもらう機会があってもよいのでは。銀行の待合室等に置けたら、大人と子どもでふるさとの情報を共有できる。		【学校教育課】	既存事業を継続	【学校教育課】 ・小学生郷土読本「わたしたちの倉吉」、そして中学生郷土読本「くらし風土記」を作成しており、学校の授業で活用することで、倉吉を「知る」取り組みを行っている。児童・生徒には無料で配布しているが、それ以外の方には有料で提供している。関係課等を通じて依頼があれば、無料で配布できるよう柔軟に対応していきたい。
12	小学生～高校生	職場体験、ふるさと教育、キャリア教育の充実	(名越委員) ・子どもは、高校1、2年生あたりで将来のことを考えているように思う。その時期である高1の夏～冬の時期に倉吉について学ばせるのがいいと思う。 ・多忙で難しいかもしれないが、教員が倉吉の状況について理解しておかなければならない。		【学校教育課】	既存事業を継続	【学校教育課】 ・総合的な学習や土曜授業での学習を通し、子ども達が倉吉の自然や歴史、文化などに誇りと愛着が持てるよう、倉吉のよさを子ども達に伝えるため、地域の特色、人材や自然・歴史・文化などに詳しい地域コーディネーターと学校教職員が連携をし、ふるさと学習の取り組みを行っている。 ・地域コーディネーターとの連携により、地域の特色について知る教職員も増えており、取組を継続していく。
13	大学生(県外)	県外進学者等へのアプローチ	(福井委員) ○まち冒険 in 倉吉 ・倉吉市は観光PRは成功しているが、魅力的だと感じる仕事の情報が少なく、若者が倉吉市にUターンする理由がないのが現状。 【目的】 倉吉市出身の若者や県外の20代・30代が就職の際にUターン・ターン就職をする流れを作る。 【事業概要】 ・発掘と見える化 都会の大学生が倉吉市の事業所を地元の高校生・中学生と取材、経営者の魅力を発信するWebページ作成 ・発信・募集 「JUjob」(ハローワークに上がってこない仕事探しサイト)に倉吉版を作る、「日本仕事百貨」(ページビュー:190万人/月)での発信・募集 ・人材育成 「キーマンSTORY」(取材ツール)を活用した研修の実施、倉吉市の経営者等の情報発信 ・生態系化 「若者が帰ってきたい町 くらしフォーラム」の開催、首都圏や関西圏での山陰地方出身の大学生を対象としたワークショップの開催		【地域づくり支援課】 【商工観光課】	将来的に検討	【地域づくり支援課】 ・倉吉市出身の若者をUターンさせる取組として、鳥取県と連携し、県が就職等の協定を締結している大学を訪問し、就職活動に要する交通費助成のPR及び市内事業所の新卒求人情報を提供し活用してもらうよう働きかけを行っている。 ・今後も継続して取り組んで行く予定。 【商工観光課】 ・県外進学者への呼びかけ、情報提供はとても重要であり、現在の取組に加え、効果的なアプローチを県をはじめ関係機関等と協力しながら推進していきたい。 ・提案内容については、企業努力の部分と行政が支援すべき部分について、関係機関等と検討を進めていきたい。

14	大学生(県外)	地元企業のインターンシップ促進 県外進学者等へのアプローチ	(田中良委員) ・就職先としての企業を発信し、知ってもらおうのがひとつのやり方だと思う。	(美船企画産業部長) ・鳥取県が、関西の大学と協定を締結している。その中の15大学を倉吉が訪問し、倉吉の就職状況、倉吉での就職活動のための交通費助成制度を学生に届けられるようなパイプづくりをしている。 ・このようにいろんな手法で取り組んでいる。	【地域づくり支援課】 【商工観光課】	将来的に検討	【地域づくり支援課】 ・地元企業を知ってもらうため、鳥取県と連携して県が就職等の協定を締結している大学を訪問し、就職活動に要する交通費助成のPR及び市内事業所の新卒求人情報を提供し活用してもらうよう働きかけを行っている。 ・今後も継続して取り組んで行く予定。 【商工観光課】 ・中小企業の多い本市にあつてはホームページを持たない事業所や、ホームページがあつても更新がされていなかったり、見にくかったりする事業所もある。 ・インターンシップの受入も企業を知ってもらうには効果的な取組であり、国も推進に力を入れているところ。 ・これらの対応については企業努力の部分と行政が支援すべき部分について関係機関等と検討を進めていきたい。
15	大学生(県外)	県外進学者等へのアプローチ	(河野委員) ・リクナビを使ったが、800人が接触してきて、3人結果に結びついた。県外学生はインターネットを見て、例えばスイカを育てたいなど、はっきりとした目的意識を持っている。		【地域づくり支援課】 【商工観光課】	将来的に検討	【地域づくり支援課】 ・成人式において、県内の企業の求人情報を受けられるポータルサイトへの登録を呼びかけている。 ・あらゆる機会を通じて若者にさらなる登録の呼びかけを行うとともに、できるだけ多くの情報を届けられるよう県とも検討していきたい。 【商工観光課】 ・中小企業の多い本市にあつてはホームページを持たない事業所や、ホームページがあつても更新がされていなかったり、見にくかったりする事業所もある。 ・県外学生に企業を知ってもらうためには、ホームページやSNSでの発信は必要な条件であり、これらの対応については企業努力の部分と行政が支援すべき部分について関係機関等と検討を進めていきたい。
16	大学生(県外)	県外進学者等へのアプローチ	(岩世委員) ・今の大学生は、1年生から、東京オリンピック後は就職が大変そうだという会話をしている。特に、都会の大学に通う地方出身者が心配している。 ・倉吉に戻ることを考えたとき、人口が減っており、就職する企業はあるのか、雇用の枠はあるのかと心配している。		【地域づくり支援課】 【商工観光課】	既存事業を見直し	【地域づくり支援課】 ・県内の企業の求人情報を受けられるポータルサイトをふるさと定住機構が運営されている。 ・鳥取県と連携して県が就職等の協定を締結している大学を訪問し、就職活動に要する交通費助成のPR及び市内事業所の新卒求人情報を提供し活用してもらうよう働きかけを行っている。 ・必要な就職情報が、必要としている若者に着実に届けられるよう関係機関等と検討を進めていきたい。

17	大学生～社会人	県外進学者等へのアプローチ 子育て世帯に必要な情報の確実な伝達・発信	(三木委員) ・多くの学生は、地元に戻ろうと思ったら、金融機関、公務員、あるいは技術系企業に勤めることを考える。地元企業の人材不足に問題意識を持っていたが、この問題を解決するにはまだ時間がかかると感じる。 ・解決の糸口としては、自然豊かな環境で働くことに価値を見出す人材に鳥取を発信していくこと。こうして起業やまちづくりを起こしていくことは、相乗効果が得やすいと思う。 ・いかに魅力ある地域をつくっていくかが重要。「この地域で頑張ることで、働き甲斐が見いだせる」というような地域をつくるのが大切。		【地域づくり支援課】	既存事業を継続	【地域づくり支援課】 ・県外相談会にて倉吉市の魅力を発信をしているところ。今後も相談会、SNSにて情報発信をしていきたい。	
18	大学生～社会人	県外進学者等へのアプローチ 住宅政策 空き家のリノベーション促進 出生数の増 子育て世帯に必要な情報の確実な伝達・発信	(加藤委員) ・関西の学校の農家民泊、体験学習を受け入れた。聞いてみると、借家に住んでおり、家を継ぐ必要もないので、田舎に住みたいという子は多かった。 ・田舎の自然の中で生活したい、お金よりも環境のいいところに住みたいという価値観を持っている。 ・倉吉市の耕作放棄地が多い中で、若者が定住し、農業をやってくれば幸い。 ・農地や空き家を提供し、若者の移住につながれば。 ・都会では人口が多い分、福祉が充実していない。 ・子ども時代、都会で遊ぶ場所がなかったので、自分の子どもは田舎で育てたいと言う人が多い。	(美船企画産業部長) ・市では、移住者の獲得を目的に、「倉吉で暮らそう」というパンフレットを作成し、営業材料として使用している。その中に、暮らしやすさ、子育てのしやすさもパンフレットに盛り込んでいる。	【地域づくり支援課】 【商工観光課】 【農林課】 【建築住宅課】 【子ども家庭課】	既存事業を継続	【地域づくり支援課】 ・空き家の有効活用を目的として、空き家バンク制度を運用している。また移住者に対しては住宅取得に係る支援も行っている。 【商工観光課】 ・市が補助金を支出している倉吉市体験型教育旅行誘致協議会では、現在小中学校における修学旅行の受け入れを行っている。年々受入生徒数が増加していることから、今後も受け入れ農家の拡大及び受入環境整備の推進を図るため支援を継続することとしている。 【農林課】 ・農業を希望して来庁された相談者に対して、農業研修経験なしの若者、研修済の若者など聞き取りを行い、県の農業改良普及所、農業大学校、農業農村担い手機構等と連携し、各種支援にあたっている。 ・若者が農業での移住定住を希望される方の相談に応じるため、地域づくり支援課と県外への移住定住相談会へ参加している。 【建築住宅課】 ・調査した空き家の内利用可能な住宅は移住定住の窓口に情報提供すると共にリノベーションを行う方法を説明する事ができる。 【子ども家庭課】 ・子育て支援に関するパンフレットの内容を適宜見直し、的確な情報発信に努める。	

19	大学生～社会人	魅力的な起業の創出 新たな付加価値を生み出す魅力的な農業	(福井委員) ・地元で資源があっても、地元の人にはそれが資源であると気づきにくい。都会の人の方がそういう視点を持っている。 ・ <u>都会の人が田舎でチャレンジできる仕掛けをつくるのが大事。</u>		【商工観光課】 【農林課】	既存事業を継続	【商工観光課】 ・チャレンジショップやにぎわいのある商店街づくり事業、ビジネス情報相談会の開催、商工会議所の創業支援事業を継続するとともに、創業・起業を支援するよろず支援拠点や補助制度・融資制度などの情報を発信していく。 【農林課】 ・若者が農業での移住定住を希望される方の相談に応じるため、地域づくり支援課と県外への移住定住相談会へ参加している。 ・今年、農業人フェア等に参加し、スイカを中心とする倉吉市の農業を紹介し、移住希望者の相談に対応する予定。	
20	社会人	魅力的な企業の育成 魅力的な起業の創出	(田村委員) ①積極的に既存企業者の声を聞く ・各企業にアンケートや要望を聞く案内を出し、市に対しての要望を聞く機会を作る。 ・事業者の問題点を知る事でサポートをして行く事に繋がるのだと思います。 ・市がアクションを起こす事で企業者としても励みになります。 ②起業したい人達を県内外から掘り起こし ・育てる支援、移住して頂く支援を作る。 ・倉吉らしい起業家…手作り作家が世界的にも増えるのでまとをしほっても良いかもしれません。 ③倉吉市としてのプロフェッショナルな相談窓口の開設 ・事業継承、消費税問題、自然災害、キャッシュレス化等の対応。 ・f-Bizもどきでも良い。静岡では斬新な切り口のいい話がどんどん進んでいる。 ・商工会議所と並行しても良い。 ・現在の内容では足りません。 ④今まであった補助金も無く、応援がない ・倉吉でも斬新な切り口のことをサポートしてほしいが、商業者への支援がゼロ。以前から行っているが、響かない。 ・企業にとってエネルギーの湧くような政策を考え、発信して下さい。 ※事業リストNo.49、50、51の見直し	(美船部長) ・市内の既存企業だが、4人以上の事業所は製造業93社、商業637社あり、企業の声、ニーズ、悩みをどう効率的に聞か、一つのテーマになっている。商工会議所との連携も必要だが、会議所に設けられている各部会での議論がどのようになっているか、可能性を深掘りしていく必要がある。	【商工観光課】	既存事業を見直し	【商工観光課】 ・チャレンジショップやにぎわいのある商店街づくり事業、ビジネス情報相談会の開催、商工会議所の創業支援事業を継続するとともに、創業・起業を支援するよろず支援拠点や補助制度・融資制度などの情報を発信していく。 ・各企業へのアンケートの取り方、相談窓口の在り方、よろず支援拠点の活動については、関係機関等と検討していきたい。	

21	社会人	魅力的な企業の育成 魅力的な起業の創出	<p>(岩世委員) ・若い女性の起業相談があるが、なぜ商工会議所に行かないのか。よくわからない人が多いのでは。 ・よろず支援を続けているがレスポンスが遅い。 ・商工会議所の会員の中にはエキスパートの方が多くいらっしや、アドバイスがもらえるはず。 ・行政にも掘り下げてもらって、起業等若い人が実現したいことへの相談窓口を切り開いてもらいたい。</p> <p>(安藤委員) ・金融機関も起業や事業承継に力を入れているが、まず相談はどこに行くか、それぞれ得意分野があり、商工会議所、よろず支援、行政が、地域としてトータルで支援ができればいいと考える。</p> <p>(名越委員) ・商工会議所は相談窓口ではない。ないに等しい。災害支援の窓口はやっている。 ・商工会議所は、親会があり、その中に青年部や女性会などがある。一緒にイベントをやって、仲間になることが大事となっている。 ・探せば相談対応できる人はいるが、お金がかかる。</p>	<p>(美船部長) ・よろず支援だが、何が物足りないのか。専門性なのか、レスポンスなのか。必要な人材をどこから獲得するかが問われている。 ・まず敷居の低い相談窓口が必要で、1度入ると奥深い支援というものがないということか。</p>	【商工観光課】	既存事業を見直し	【商工観光課】 ・相談窓口の在り方、よろず支援拠点の活動については、関係機関等と情報交換と連携を強化していきたい。	
22	社会人	魅力的な企業の育成 魅力的な起業の創出 新たな付加価値を生み出す魅力的な農業	<p>(田中響委員) ○特産物の販路拡大事業 【目的】 ・自然資源を背景として育てられている倉吉市の安心で安全な農産物。それら農産物およびそれらを原料として地場で製造・加工する食品並びに食品以外の地場商品を販売する市場を開拓し、販路を獲得する。 ・産業の衰退、人口減少に悩む本市では、特産物の地産地消はもとより、隣接地域、他府県、海外市場に至るまで販路を拡げる必要がある。 【事業概要】 1. 日本で受け継がれてきた、伝統的な食文化、食材などの紹介 味噌・醤油、納豆・豆腐、日本酒・甘酒、和菓子等 2. 新しい市場の開拓(Made in Japanに対する信頼と羨望) ① 日本食＝健康食とするイメージが広がり、定着している。 ② 来日観光客が激増している。 ③ SNSによる情報の発信・共有・拡散事業 ※高度経済成長しているスリランカには中国製品が多く輸入されているが、ニーズとしてはメイド・イン・ジャパンが好まれている。 3. 生産農家(酪農・漁業)など生産事業者や加工業者及び関連団体と協働、提携、連携して、既存商品のブランド化や新商品の開発・提案できる環境づくり。</p>		【農林課】 【商工観光課】	既存事業を見直し	<p>【農林課】 ・農産物の販路拡大については、JA鳥取中央等の関係機関と連携し、提案・意見・検討事項を踏まえ進めていきたい。 ・生産事業者は1次産品としてより良い物を生産することを第1に考えており、なかなか2次、3次にまで関心が向かない。2次、3次産業からのアプローチがないとなかなか進まない状況にある。 ・国、県の補助制度の周知も含め、JA鳥取中央等の関係機関と連携し、既存商品のブランド化や新商品の開発・提案できる環境づくりを行っていく。</p> <p>【商工観光課】 ・現在、商品販路開拓支援事業により販路開拓の活動支援を行っている。年間5件程度の利用があるが、より多くの企業へ周知していきたい。 ・新商品の開発支援については、地域資源活用新事業創出事業を設けているが、活用が少なく、本年度は利用状況や成果を検証するため休止。商工会議所の同様の支援事業を活用状況を検証し、今後の方針を決定したい。</p>	

23	社会人	魅力的な起業の創出 新たな付加価値を生み出す魅力的な農業	(河野委員) ・各地区で農協女性会が加工品を作って、東京のアンテナショップや大阪の京阪ストアで売っている。 ・今、神倉大豆の豆腐や納豆を販売しているが、おからスイーツを開発中で、販売する予定。 ・鳥取看護大・鳥取短期大と連携して、捨てられてしまう農産物を使って「もったいないプロジェクト」を進めているが、ねばりっ子の切れ端や葉が捨てられており、トラックをチャーターしてまで処分している。うまく事業化されればと考えている。 ・JETROで市場調査等を行っているが、実際に海外の卸業者と協定を結ぶにしても、こちらがどれくらいの量を確保できるかという課題もある。また、女性会は無添加で加工品を作っており、日持ちがしない。作る場所によって味も違ってくると、試行錯誤している。	(美船部長) ・販路開拓、出口が大事で、市役所も考えている。	【農林課】 【商工観光課】	将来的に検討	【農林課】 ・現時点での事業化は困難であるが、国、県の補助制度の周知を含め、市として関わりがあれば、相談して行きたい。 【商工観光課】 ・現在、商品販路開拓支援事業により販路開拓の活動支援を行っている。年間5件程度の利用があるが、より多くの企業へ周知していきたい。 ・新商品の開発支援については、地域資源活用新事業創出事業を設けているが、活用が少なく、本年度は利用状況や成果を検証するため休止。商工会議所の同様の支援事業を活用状況を検証し、今後の方針を決定したい。
24	社会人	空き家のリノベーション促進	(竹尾委員) ・市内に分散している出店者を、バス通りの空き家に埋めていって回遊してもらう仕掛け作りをしては。そうすれば、市民も行くようになる。買い物ついでに食事も、とつながれば、昔の銀座商店街の活気が戻るのでは。 ・現在、NPOの方で空き家に入ってもらう方々をまとめていけたらと考えているところ。	(美船部長) ・民間の皆さんの方で、店やプレイヤーを引っ張ってきてもらえればありがたい。	【商工観光課】	既存事業を継続	【商工観光課】 ・チャレンジショップやにぎわいのある商店街づくり事業を推進し、中心市街地をはじめとする空き店舗活用した創業支援によるにぎわい創出、商店街の復活をめざしているところ。 ・NPOの動きとも運動できればありがたい。
25	結婚	婚活ではない若者の出会いの場の設定	(三木委員) ・倉吉市のホームページに8月に婚活パーティを予定していると掲載されていたが、実際、需要のあるところに情報が届いていない。 (山脇委員) ・婚活情報は企業に届いているか。特に、若い人が働いている生産工場、組合に流してみようというのでは。 (岩世委員) ・病院や福祉関係は忙しく、自ら情報を得るのが難しい。そういうところに情報を流してみよう。 (笠見委員) ・連合鳥取としても、情報提供については是非協力したい。		【地域づくり支援課】 【企画課】	既存事業を見直し	【地域づくり支援課】 ・婚活イベント情報(民間が実施される物も含む)をホームページにて公開(新着情報として)ツイッター・フェイスブックにも流れる)している。また、「くらし婚活情報配信サービス」登録者には個別に郵送またはEメールにて情報配信をしている。 行政が実施する婚活イベントは、企業(金融・小売・飲食・施設など)も含め広く情報発信につとめているところではあるが、より効果的にイベントを行うためにも、情報配信先の見直し、拡充をしたいと考えている。 【企画課】 病院や福祉関係に勤務される若者の出会いの場について、どういった設定が望ましいかアンケート等により聞き取りしてみたい。
26	出産	出生数の増	(山脇委員) ・一人目の出産に関して、個人的な価値観もあると思うが、子供を産み育てることがいかに心地よいか、体験してもらう場がつかれないか。 ・高校生向けの赤ちゃんに触れ合う会を、新婚や若者向けにつくつたらいいと思う。		【保健センター】 【子ども家庭課】	将来的に検討	【保健センター】、【子ども家庭課】 ・市内全小学校の児童を対象に『赤ちゃんふれあい会』を開催しているが、参加していただける母子の確保が困難な状況であり、対象の拡大も困難と考える。 ・現在のふれあい会の評価、振り返りにより対象の見直しも含めて事業の検討を行いたい。

27	出産	出生数の増	<p>(石村委員) ○地域で、暮らしてみる・地域が支えてみる体験事業 ・地域での生活が不安、子育てが不安な若い人たちや障がいのある人たちが市外の施設に入所したり、赤ちゃんを市外の乳児院に預けて一緒に暮らせない現状があり、そうした方たちが地域で安心して暮らす(自立支援)ことができる仕組みをつくっていく。 ・地域で支え合うことで地域住民や高齢者の生きがい・地域づくりにつながる。 ・空き家等を活用して、支援者のサポートにより、実際に地域で生活したり、子育てをしながら暮らしてみる。</p> <p>※事業リストNo.5、21の見直し</p>		【福祉課】 【子ども家庭課】 【地域づくり支援課】	将来的に検討	【福祉課】 ・ご提案いただいていますように、障がいがある人が、地域で安心して暮らせる体制を作ることは、とても大切です。 そのためには、地域住民の支え愛意識の向上が今後ますます必要であり、行政も関係課・機関と連携して支援していかねばならないと考えます。 【子ども家庭課】 ・地域住民等の支援により地域全体で支え合うコミュニティーの醸成 ・新たな施設整備については困難 【地域づくり支援課】 現在の空き家バンク制度は住宅の用途に限定した提供を行っているが、今後は地域づくりにも活用していただけるよう検討していきたい。	
28	出産	子育て世帯に必要な情報の確実な伝達	<p>(石村委員) ・雨が降ったとき、子どもたちが遊びに行ける場所がなかなかなく、イライラしている。雨が降っても、子どもたちが遊べるスペースがほしい。</p>	<p>(美船部長) ・旧ナショナル会館の整備予定では、子どもの屋内の遊び場が計画されている。</p>	【子ども家庭課】 【生涯学習課】	既存事業を継続	【子ども家庭課】 ・子育て支援センター2施設、児童館10施設の利用について周知を図っていきたい。 【生涯学習課】 ・数は少ないが公民館事業で、就学前の子どもを持つ親子を対象とする事業を実施している館もあり、館報やHP等で広報をしているため、都合があれば利用していただければと思う。 ・地区公民館は、誰もが利用できる施設であり、オープンスペースとなっている場所や図書室などの利用は無料で利用できるもので、気軽に利用していただきたい。 ・指定管理委託にあたり、地区公民館が子どもの居場所としての役割を担えるのかどうかについて、検討していく予定である。	